

# Together



学長就任のご挨拶

## 学生の主体的な学びを 「チーム淑徳」で支えたい

東日本大震災復興10年 TOMOIKI企画 特別対談  
卒業生とともに10年を振り返る

ともいきのこころ

学祖・長谷川良信先生の足跡



# 学生の主体的な学びを「チーム淑徳」で支えたい

淑徳大学 学長 山口 光治

## 経歴

- 1963年 長野市に生まれる
- 1981年 福祉職を志し、淑徳大学社会福祉学部（現 総合福祉学部）入学
- 1985年 都内の特別養護老人ホームに就職
- 1987年 長野市の特養立ち上げに加わる
- 1996年 仕事の傍ら淑徳大学大学院社会福祉学研究所（現 総合福祉研究科）の修士課程で学ぶ
- 2004年 国際コミュニケーション学部（当時）准教授就任
- 2005年 社会福祉学専攻博士後期課程 単位取得後退学
- 2009年 国際コミュニケーション学部教授就任
- 2014年 総合福祉学部教授就任
- 2017年 副学長就任
- 2021年 学長就任

淑徳大学17期生の山口光治教授が、本学卒業生として初めて学長に就任いたしました。学部卒業後は特別養護老人ホームに勤め、日々の実践を見つめ直すために仕事の傍ら修士を修め、のちに福祉から教育現場へと軸足を移した経歴を持ちます。就任に当たっての想いを聞きました。

## 現場に根差した学び重視

本学の学びの特徴を、どのように考えますか。

さまざまな体験や実践を通して気づきや学びを得ていく実学教育が特徴ではないでしょうか。そして、その実践が自らの人格に実りをもたらし、成長していくのだと思います。ボランティアや、自ら課題を発見し解決するPBL（問題解決型学習）といった現場に根差した学びは、これからも大切にしていきたいです。

実学教育は、本学の学祖、長谷川良信先生が大切にされたことです。社会で役立つことを身につけ、人と触れ合う中で、知識や経験を得るだけでなく、

く、人間としての内面まで成長していくのではないのでしょうか。淑徳大学の学生や卒業生は、人々の生活に密着したところで、他者に役立つことをコツコツやっていく人が多いと感じます。

山口先生は、福祉職から教育職に転身された訳ですが、何か共通点はあるでしょうか。

福祉では、利用者の主体性を尊重し、その人を中心として自立・自律に向けた支援を行います。Helpするのではなく、Help to self helpが大切だと思います。教育も同じだと思っています。学修の主体は、学生です。学生が社会人として自立していくのを、我々教職員が支えます。福祉と教育は、いずれも人間がその人らしく生きていくためにとても大切な仕事で、共通するところが少なくありません。

## 交流生み、新しい文化を

本学の良さはどこでしょうか。だと考えますか。

4キャンパス、6学部、11学

科、2研究科、1短期大学部があり、横の広がりがあることで、これは、大きな財産だと思います。ただ、キャンパスの垣根を越えた交流が物理的にどうしても限られていました。今後は、学生がもっと学びを分か合い、お互いに成長する機会を模索していきたいです。

最近では、千葉第二キャンパスの栄養学科の学生は、埼玉キャンパスの女子柔道部の部員とペアになって、栄養指導を行いました。たとえば、小学校教員を目指す学生は、千葉キャンパスの教育福祉学科と埼玉キャンパスのこども教育学科の両方にいます。卒論を合同で発表するということのように、一緒にできることを考えていきたいですね。1+1は2ではなく、3にも4にもなっていく可能性が高まります。

各キャンパスの学生と教職員が垣根を越えて交流し、刺激し合い、新しい文化を生み出すことに期待しています。そのパイプ役になりたいです。

新型コロナウイルスの流行で、2020年度はさまざまな変化や制約がありました。

コロナ禍での大学運営をどう考えますか。

感染防止に手を尽くしつつ、学生の学ぶ権利はきちんと守らなければならないと考えます。オンライン学習も活用しつつ、人と人が直接向き合う機会も確保したいですね。リモートでの活動が増える中で、新たな可能性も見えてきました。オンラインシステムを使えば、これまでと違い、キャンパスを越えて共通の授業を受けることも容易になります。こうした良い面は、コロナ禍であろうと、なかろうと、大学運営のあり方として確立したいですね。

## 自校教育を広げたい

新たに挑戦することがあれば、教えてください。

「チーム淑徳」を実現したいです。淑徳大学と学生のために、どんな力が発揮できるかということ、教職員が改めて考える機会を設けたいです。

また、建学の精神を学ぶ「共生論」のような自校教育科目を、大学全体に広げることも考えて

学生、保護者、卒業生の皆さんにメッセージをお願いします。

います。学生には、本学の歩みと、学祖の本学に託した思いを理解してもらい、自分の生き方を探求して欲しいです。さらに、学祖は「感恩奉仕」つまり、自分が生かされていることへの感謝を、他者への奉仕としてお返ししていく生き方を重視しました。ここでは、自分のいのちは自分一人のものではなく多くの恩を受けて生かされているものという理解が必要です。さらにそのこと自体に気づく力を学生の皆さんには大学生活の中で養ってほしいと思います。淑徳の学びを、これまで以上に見える形にし、学生に本学の良さ、魅力を感じてもらえるようにしたいです。

学生の皆さん、あなたが淑徳大学で学びたいと希望する限り、我々はしっかりとその学びを応援します。ぜひ4年間をあなたらしく輝かせてください。保護者の方には、ご子息、ご

息女の自立を育み、生き方を見守ってほしいと感じます。学生



# 障がい者と健常者が

文部科学大臣表彰受賞  
手話サークルたんぽぽ

# 共に楽しむ

渡邊大士  
Watanabe Taishi

たんぽぽ前代表(2020年)。総合福祉学部実践心理学科4年生。山梨県出身。事務職を目指して就活中。趣味はイラストを描くこと。



渡邊大士さん

千葉キャンパスの手話サークル「たんぽぽ」が2020年12月、文部科学大臣表彰を受賞しました。聴覚障がい者と健常者が共に手話を用いたパフォーマンスを学び、地域での手話の普及にも熱心なことなどが評価されたのです。75人という大所帯の前代表と現代表に、手話を学びパフォーマンスを披露する意義や思いを語り合ってもらいました。

## 楽しさやワクワク感大切に

どんな活動をしていますか。

野村 普段は週3回、例会を開いています。テーマを決めて楽しく手話を学んだり、手話を使ったレクリエーションをします。20年度は対面で活動

ができなかったことから、インスタグラムやツイッターに動画を上げ、見てもらいました。渡邊 例年ですと、イベント活動が多くあります。プロバスケットボールチーム・千葉ジェッツふなばしのハーフタイムショーに、会場を盛り上げるために手話ソングのパフォーマンスをしてきました。障がい者と健常者が一緒に文化芸術活動を行うのを応援する、千葉市のイベント「チバフリ」でも、手話ソングを披露しました。

野村 手話ソングは、歌詞をそのまま手話通訳するわけではありません。歌詞に込められた意味を自分たちで考えて、音楽に合わせて手話で表現します。

渡邊 たんぽぽの多くの活動は、障がい者と健常者の区別なく、一緒に楽しめるようにして

野村真緒さん



野村真緒  
Nomura Mao  
2021年1月、たんぽぽ代表に就任。総合福祉学部教育福祉学科3年生。千葉県出身。特別支援学校の教員を目指しており、趣味は手話。

います。そのような点が評価されて、今回の受賞につながったのかなと思います。楽しさやワクワク感を大切にしているのので、サークルはアットホームで明るい雰囲気です。

## メンバーの姿見てモチベーション高める

2人はどんなきっかけでたんぽぽに入りましたか。

渡邊 私は耳が聞こえないので、もともと淑徳大学が推進している情報保障(聴覚障がい者などに代替手段を用いて情報を伝えること)に関心を持っていました。オープンキャンパスで行われる模擬授業や学園祭のライブステージで、必ずたんぽぽのメン



バーが手話通訳を担当します。こんなに積極的に活動しているサークルってすごいと思ったのが、大きなきっかけです。

オープンキャンパスで、たんぽぽの先輩たちと触れ合うコーナーがあったのですが、皆さん手話が本当にうまくて、優しくて面白いのが印象的でした。

野村 私はたまたま大学の同じ

クラスに聴覚障がいのある友達がいる、手話で楽しく話せたらいいなと思って入りました。筆談やジェスチャーを使ったコミュニケーションから始めて、50音を手の形で表現する指文字を習い、手話を覚えていきました。1年たったときには手話で自然に会話ができるようになっていました。

渡邊 野村さんは最初に出会ったときから、すごくアクティブで、筆談などで積極的に話しかけてきましたね。手話の習得も早かったです。サークルの先輩たちにも手話をしっかり身に付けている人は多く、そういう姿を見ていて、私も活動を頑張ろうとモチベーションが上がっていききましたね。たんぽぽには、さまざまな学部、学科の人がいるので、人とのつながりが広がりました。入って良かったなど心から思います。

## リモートならではのできること増やしたい

コロナをきっかけに新たな展開や挑戦があれば、教えてください。

渡邊 千葉県内の小学生にリモートで手話を教えるボランティア活動をしています。リモートならではの、できることも色々あるので、こういう活動も増えたらいいですね。

野村 リモートのいいところは、遠くにいる人とも関われること。学内だけじゃなく、学外とつながってみるのも面白いん

## 手話サークルたんぽぽ

<https://www.shukutoku.ac.jp/campuslife/club/chiba/tanpopo.html>



Twitter



Instagram

Twitter、Instagramで活動情報を発信しています。

左記QRコードよりご確認ください。

顧問

総合福祉学部 教育福祉学科 松浦俊弥教授

文部科学大臣表彰受賞について10ページのTOPICSでも紹介しております。

## 今号の表紙はこの人!

澤本有咲  
Sawamoto Arisa



表現学科4年の澤本有咲さんは、淑徳大学では「学ぶチャンスが多い」と話します。学内では、ボランティア活動から広報誌制作まで募集があれば全てに参加するほどチャレンジ精神旺盛です。そんな彼女は、学外の活動にも積極的に参加しています。昨年には和の文化をテーマとした「ミスなでしこ日本」のファイナリストとして舞台に立ちました。初めてのミスコンでしたが、授業で学んだ発声方法や魅力ある伝達方法を活かして、堂々としたスピーチを行いました。現在は、将来の夢に向かって就職活動に取り組んでいます。

藍よりも青く  
青は藍より出でて藍より青し。教えを受けた弟子が教えた師を超える人物に成長することのたとえ。活躍する在学生を取り上げます。



# 東日本大震災復興10年 TOMOIKI企画 特別対談 卒業生とともに10年を振り返る

この特別対談は当初現地に赴き対面で実施する予定でしたが、2021年1月7日 新型コロナウイルスによる緊急事態宣言の発出を受けて、急遽オンライン（Zoom）での開催となりました。慣れない端末操作や通信環境の問題もあり、3名の卒業生の方には大変なご迷惑をおかけしながらも、発災後からの10年の思いをはじめ、大学や在学生に伝えたいことなど、90分にわたり熱く語っていただきました。

対談日時  
2021年1月30日（土）  
13:30～15:00  
収録場所  
淑徳大学埼玉キャンパス  
図書館1階 ラーニングcommons  
司会進行  
淑徳大学 副学長（当時）  
総合福祉学部 教授 山口 光治



特設ページ

東日本大震災復興10年 TOMOIKI企画  
～できることをいまここから～  
紙面の関係で一部の紹介になりますが、詳細は  
大学ホームページ特設サイトをぜひご覧ください。



## はじめに（対談の目的）

山口教授 2011年3月11日14時46分、三陸沖の宮城県牡鹿半島の東南東130km付近で、深さ約24kmを震源とするマグニチュード9.0、最大震度7の地震が発生し、地震と津波、原発による放射能汚染など多くの被害を出しました。そのような東日本大震災の発生から10年が経とうとしています。皆さんは、当時どこで、どのように過ごしていたのでしょうか？  
甚大な被害は、今なお続いており、住み慣れた地域へ戻ることができなかったり（放射能汚染、高台移転など）、新たな地域で暮らしていても住民間に暮らしにくさが生じたりします。さらには震災がきっかけで高齢化と少子化が急速に進んだことによる影響など、いまだに安全で安心な暮らしができない様子もうかがえます。  
淑徳大学は、発災後、当時雄勝町大須小学校の避難所にて陣頭指揮に当たっていた岩佐勝さんからの支援要請を受け、その期待に応えるべく「東日本大震災支援ボランティアセンター」を立ち上げて、学生と教職員が

現地に入るなど、活動を行ってまいりました。また、授業やゼミ活動、ボランティア活動などで、被災地へ訪問し、様々な学びの機会を持ってまいりました。  
このたび、3名の卒業生にご協力いただき、震災当時の様子と10年が経過して地域はどのように変わったかなどについてお聞きします。そこから私たちは何を学んでいかなければならないのか、未曾有の大災害を経験した私たちがこれからのように生きるのか、また、大学としてどのようなことができるのかについて考えてまいります。

## 対談者からのメッセージ 在学生と大学への期待

岩佐さん 校長としての学校運営、避難所運営の傍ら、近くの大川小学校で74名もの子供さんが亡くなったことに随分苦しみました。なんとかできなかったのかなど、いろいろ思っただけで過ごしてきました。そんな経験から、すべての学生には防災の学習をして、防災の意識を高めてほしいです。災害時に避難する場所を決めておくこと。避難所運営能力をつけること。被災地を見ていない人は、一度は

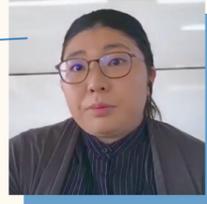


## まとめにかえて

山口教授 まず、命の大切さと今日一日を大切に生きることへの感謝。改めて当たり前のことが当たり前じゃない状況が起こり得るのだということをまず感じさせていただきました。  
2点目は、現地に行く、被災地へ行くこと、それから被災された方のお話を聞くこと、そこでボランティア体験をすることの意味についてです。大学という教育機関として、そういった教室の中にはない、現場で学ぶこと、そこに行かないと伝わらないことがたくさんあるのだというのを、お話の中から感じさせていただきました。

北村さん 大学4年間の日常的な生活が大切です。学生生活の目の前の課題をとにかく克服していくことで将来の何か（繋がり）に活かされていくでしょう。そして、大学に対しては、どんな仕事に就いても、生きていける人間教育をしてほしいです。自然災害で人を必要としている現状があれば、学生が即動けるような、加えて全国に散らばっている同窓生がまたそこで動けるよう支援ができるような、そんな組織体制を期待したいです。

荻原さん 10年前の震災で、当たり前前に送れる日常は実はとても素晴らしいことや、改めて命の大切さを知りました。時に辛い出来事があるかもしれないけれども、生きていけばなんとかなる。自身の命を大事にしてほしいです。大学の皆さんに対しては、被災地に来ていただきたい、東日本大震災津波伝承館や、語り部の方などのお話を聞いていただき、今後の災害対策などに役立てていただければと思います。



対談者  
荻原 史乃（旧姓佐藤）[岩手県]  
総合福祉学部 43期生

震災があった11年3月に卒業。岩手県陸前高田市出身。地震・津波で家族を亡くした。  
街そのものがなくなってしまい、以前と変わらない街並みもあれば、面影もなくなったところもあり、そのギャップを受け入れられない時期もあった。現在も陸前高田市内に在住し、介護老人保健施設の支援相談員として勤務。



対談者  
北村 雅 [福島県]  
社会福祉学部（現 総合福祉学部）10期生

当時福島県双葉町社会福祉協議会にて勤務。双葉町は95%が帰宅困難区域となり、地震・津波・原発事故の中、多くの方が避難所等に身を寄せた。避難中でも様々な支援を必要とする多くの方々に寄り添い支援を続け、本学の支援活動と繋がる。当時を振り返って、地震、津波、原発事故の被災者はそれぞれ違う。理解することはできても、その人の身になって考えることは難しいのかもしれない。体験していないことはわからないと語る。



対談者  
岩佐 勝 [宮城県]  
社会福祉学部（現 総合福祉学部）10期生

元宮城県石巻市立大須中学校校長。震災直後から雄勝町大須小学校避難所責任者として対応にあたる。同避難所での支援活動、その後の学習支援ボランティア等の学生ボランティアにもご尽力をいただいた。当時の地区全体の防災意識の低さゆえに、たくさんの命を失った。また、避難所の環境の悪さから、多数の方が震災関連死とならざるを得なかった。その思いを胸に、山元町防災拠点、山下地域交流センターを立ち上げ、現在も語り部など防災活動が続いている。

## 大学広報誌 過去の震災支援特集号

大学広報誌「Together」では発災から10年間、本学の復興支援の取り組みを数多く掲載してきました。特に、本学の復興支援への取り組みを取りまとめた特集号を是非、ご覧ください。



212号  
2016年7月発行



211号  
2016年4月発行



187号  
2011年7月発行



## 声に出し続ければ夢は叶う 球団で再び出会った母校

山本 繁

2001年 国際コミュニケーション学部経営環境学科(当時) 卒業  
株式会社千葉ロッテマリーンズ BtoB 本部  
法人営業部 営業グループ兼営業推進グループ チーフ

山本繁さんは、大のプロ野球好きながら、全く別の業界で接客、営業に携わっていました。「プロ野球の球団運営に関わりたい」とアピールし続け、2016年、株式会社千葉ロッテマリーンズ(以下、マリーンズ)に球団職員として入社します。20年から、淑徳大学の冠試合「淑徳大学スペシャルナイター」の担当になり、後輩たちの活動から刺激を受けるといいます。

### スポーツビジネスを学ぶ 今の学生はうらやましい

マリーンズは20年、13年ぶりのパ・リーグ2位という好成績を取めました。チームの躍進を陰ながら支えるのが球団職員で、広報や写真、映像、APARLなど様々な分野の精鋭たちで構成されます。山本さんは、接客と営業のプロとして、法人向けの看板広告や年間席の販売を担当します。「淑徳大学スペシャルナイター」の担当になってから、2、3カ月に一度は千葉キャンパスを訪れるようになりました。

「学生たちが試合観客動員数アップのために、どんな企画をしたか前向きに提案してくれて、面白いです。僕自身はマリーンズに入ってからプロスポーツを学んだので、今の学生がうらやましいですね」

山本さんは、中学で野球部に所属し、社会人になってからも、草野球チームに入るほどの野球好き。しかし、マリーンズに転職するまで、野球とは無縁の職業人生を歩きました。「学生のころは野球業界に就職するなんて、夢にも思ってい

ませんでした。身近に球団職員がおらず、そういう選択肢が現実的じゃな過ぎ過ぎて、どうい仕事なのか調べようとすらしなかったんです。その点、今の学生たちは、スポーツビジネスを学べ、しかも、プロスポーツの当事者が近くにいる、話もできますよね」

### 声を大にして夢を叫び 念願叶ってマリーンズに

山本さんは大学卒業後、ドコモショップの店長や、広告代理店の営業職を経験しました。いつかプロ野球に関わりたという思いは、温め続けていたといいます。夢を叶えるきっかけは、ドコモショップの店長時代のある出来事でした。

「元気な朝礼をやる居酒屋があるというので、参考にしよう」と上司と一緒に見に行ったことがありました。その朝礼は、毎日全員が何か夢を語ることにして、その場で皆さんもやってくれたいと言われたんです。周りが仕事をきちんとできるようなになるとか真面目に話す中で、僕だけ、プロ野球球団を運営したいですと、すごく大きい

声で言ったんですよ」

その場に居合わせた上司が、後にマリーンズに入社。球団が接客のプロを必要としていたため、山本さんに白羽の矢が立ったのでした。「夢は声に出して言った方がいい」と山本さんは実感しています。今では母校の後輩から「どうやったら球団に入れますか」と相談されることもあります。

「球団は、なかなか新卒採用をしていないので、ハードルが高いところがあります。あきらめず、一つのことを極めれば、夢の実現はおのずと見えてくるのかなど。僕はずっと接客業をベースに仕事をしてきて、声がかかったので、何かを一生懸命極めると、遠回りだとしても、ゴールに近づくんじゃないかな

と思います」

### 大学で学んだ情報処理と コミュニケーション

ところで、接客や営業に求められるのは、何といってもコミュニケーション能力です。山本さんの大学の同期には、同じように接客や営業で活躍する人が多く、「コミュニケーションの術は、大学で学んだ」と振り返ります。

「新卒で入った会社でパワーポイントやエクセル、ワードといった基本的なソフトを、ほかの同期より使いこなせました。大学で実戦的なパソコンの使い方を学んだからでしょうね」

大学での学びを生かしつつ、接客の才能を開花させ、活躍すべく頑張っていました。

## 2020年度淑徳大学卒業生 表彰受賞者のお知らせ

社会の諸分野、あるいは淑徳大学の活動に多大な貢献をし、大学の発展に対し顕著な功績が認められた卒業生を毎年表彰しています。2020年10月、卒業生表彰選考委員会を開催し、厳正な選考の結果、受賞者を決定しました。

### 長谷川良信賞 受賞者

斎藤 洋子 氏  
淑徳大学社会福祉学部(現・総合福祉学部)  
社会福祉学科卒(千葉キャンパス)11期生

### 略歴

本学を卒業後、山形県社会福祉事業団に就職され、その後、障がい者支援施設の施設長等を歴任されました。16年11月「厚生労働大臣賞」を受賞され、19年秋の叙勲で「瑞宝双光章」を受賞されました。

### 受賞コメント

この度は栄えある長谷川良信賞を頂戴し、望外の光栄に身の引き締まる思いでいっぱいです。

卒業後、出身地に戻り定年退職まで働くことができましたが、これも支えてくださった皆さまのご助力があったればこそ、と深く感謝申し上げます。ことに全国津々浦々で活躍しておられる卒業生の姿、地元山形で共に頑張る先輩・同期・後輩の皆さまの存在はとても心強く、何度励まされたか知れません。

今後もこの表彰を糧に、微力ではありますが、社会福祉士として成年後見活動や地域の福祉活動に携わり続けていこうと思っております。

誠にありがとうございました。



山本 繁  
Yamamoto Shigenori  
ドコモショップ店長、広告代理店の営業職などを  
経て、16年に株式会社  
千葉ロッテマリーンズに  
入社。接客対応の向上を  
図った「マリンおもてな  
しプロジェクト」を担  
当したのち、法人向け  
営業に、「淑徳大学スベ  
シャルナイター」を担当  
する。

## 写真について

淑徳大学開学式の当日、千葉キャンパス淑水記念館（1号館）の円形校舎の前に立つ長谷川良信先生の写真です。1965年（昭和40年）4月28日のことです。

### 1 淑徳大学の誕生

淑徳大学の開学式は、65年（昭和40年）に執り行われました。淑徳大学がここに誕生いたしました。開学式式典には、秩父宮妃殿下（昭和天皇の弟の妃）をお迎えいたしました。殿下は正門（現在の南門）からご入場になり、記念式典が講堂で執り行われました。式典後、良信先生みずから大学の構内をご案内しています。良信先生が丁寧に殿下をご案内されている写真がアーカイブズに残されています。

### 2 長谷川先生のこころもち

長谷川匡俊理事長は「学祖は、おもてなしの精神が旺盛な方でした」と良信先生について語っています。良信先生がご案内したのは、キャンパスの敷地だけではなく、「郷土資料館」もそのなかに含まれていました。写真のなかに淑徳大学にゆかりのある大巖寺の寺室などをご案内されている良信先生の姿がありました（下の写真、左から1人目。2人目が妃殿下）。

学祖・長谷川良信先生の足跡  
——写真から広がる長谷川良信先生の世界——



## 1

### 手話サークル「たんぼぼ」が令和2年度文部科学大臣表彰を受賞しました

文部科学省では、障がい者の生涯を通じた多様な学習を支える活動を行う個人又は団体のうち、活動内容が他の模範と認められるものに対し、その功績をたたえ文部科学大臣表彰が行なわれています。このたび、淑徳大学千葉キャンパスの手話サークル「たんぼぼ」の活動が、2020年12月8日にオンライン表彰式にて文部科学大臣表彰を受賞しました。



詳細についてはこちら

## 2

### 淑徳大学同窓会より「教育研究活動学生緊急支援金」として寄附金が贈呈されました

淑徳大学同窓会から、新型コロナウイルス感染症の影響を受ける学生への支援（教育研究活動学生緊急支援金）を目的とした寄附金が、2020年11月17日、多久島宏規会長より大乘淑徳学園 長谷川匡俊理事長、淑徳大学 磯岡哲也学長（当時）に贈呈されました。

左：写真左から、磯岡学長（当時）、多久島会長、長谷川理事長  
右：多久島同窓会長より長谷川理事長へ寄附金が贈呈されました



長谷川良信先生（淑徳大学アーカイブズ所蔵）

### 3 郷土資料館の設置

じつは、この資料館は、皇居にあった二間廊下を移築して設置したものでした。二間廊下という名前からわかるように、幅が二間（3.6m程度）で細長い展示室でした。現在は残っていませんが、大巖寺の三門の両脇に設置されていました。

### 4 先端を行く

良信先生は、当時としては先端を行く考えを持って開学の準備をされておられました。

資料館については、学園の65年度「事業の展望」の「大学と文化苑」の項目で「郷土資料館などを整備する」と述べ、地域に残された資料の展示を考えていました。良信先生が準備された資料館は、展示室としては長く使用されませんでした。その後はしばらく地域の人々に学習の場として提供されました。

### 5 展示コーナーへ行ってみよう

現在、淑徳大学は大学アーカイブズの常設展示室・特別展示室を持っています（千葉キャンパス1号館3階）。そして、千葉キャンパスの1号館4階には良信先生の展示コーナー、各キャンパスにもそれぞれ良信先生の展示スペースが設置されています。

ぜひ足を運んで、良信先生の人生に出会っていただきたいと思います。

（淑徳大学アーカイブズ）

## 3

### 東日本大震災復興10年 TOMOIKI企画 ~できることをいまここから~

淑徳大学はこれまで同窓会のネットワークや現地の皆さんの多大なる協力のもと、3.11を風化させない「できることを。いま。ここから。」をスローガンに災害・復興支援活動を継続してきました。

東日本大震災の発生から10年という節目に、東日本大震災復興10年TOMOIKI企画を実施し、特設ホームページを開設しました。これまでのご支援とご協力に感謝するとともに、支援活動を通して得られた経験や学びを今一度振り返ります。それにより、これからも学祖の思い（利他共生の精神）を継承していくこと、忘れてはいけないこと、風化させてはいけないことを確認し、さらに各地で起きる災害に互助・共同することや備えについて、皆さまと共に考えていきます。そして、本学教育・研究活動および地域貢献活動の更なる充実を目指します。皆さま是非ご覧ください。

### 東日本大震災復興10年 TOMOIKI企画 特設ページ掲載内容

1. 学長あいさつ
2. 特別インタビュー
3. 特別対談
4. オリジナルパネルシアター
5. 復興支援への取り組み報告
6. 思いをつなぐ。つなげる。（メッセージ） 他



特設ページはこちら

右：特別対談（オンライン）撮影の様子



## 国家試験合格祈願の護摩焚きに参拝 看護栄養学部

2020年12月8日に大巖寺不動堂で国家試験合格祈願の護摩焚きが行われ、看護栄養学部からは看護師・保健師・管理栄養士合格をめざす4年生の代表学生が参拝いたしました。大巖寺は、淑徳大学を運営する学校法人大乘淑徳学園の理事長である長谷川匡俊先生が住職を務めております。当日は長谷川先生によるご祈祷後にお護摩札をいただき、合格への気持ちが一層引き締まりました。

20年度はコロナウイルス感染予防のため、看護学科・栄養学科ともに前期の4年生国家試験対策は遠隔授業をメインとして実施されました。そのような中でも勉強時間を確保し、前年度に合格を勝ち取った先輩たちに続け!と努力を重ねてきました。ご祈祷いただいたご利益をもとに、4年間の集大成として全学生が合格を勝ち取れるよう、教職員と共に一丸となって最後の最後まで国家試験対策を実施しました。



上：合格祈願の護摩焚きの後、長谷川先生から激励のお言葉をいただきました。  
右下：合格祈願のお護摩札を直接長谷川先生より授かりました。合格への気持ちが一層引き締まりました。

## コロナ禍でのボランティア活動 看護栄養学部

2020年度は世界的に新型コロナウイルスの感染拡大を防止するために様々な活動が制約された1年となりましたが、本学部では地域連携委員会やボランティアサークルが中心となり、感染予防対策を行いながら様々なボランティア活動をしました。

地域連携委員会が主導するボランティア講座では、「ボランティア活動を再開するまでの地固めの期間」として、3回にわたるボランティアの基礎、点字や手話、コミュニケーションスキルに関するオンライン勉強会を行い、その一部を地域の皆様にも公開しました。夏には、図書館開放ウィークと称し、地元の中学校や高校に通学する生徒さんに図書館を開放しました。その活動が発端となり「千葉県立千葉南高等学校と本学との高大連携に関する協定」の締結につながりました。

学生主体のボランティア活動では、近隣の病院や施設への壁装飾、地元松ヶ丘地区の緑化活動を行いました。直接、対象者と関わるボランティア活動は、感染防止の観点から困難でしたが、それでも自分たちができることを懸命に考え、壁装飾ボランティアを行いました。

コロナ禍は長期化しそうな兆しも見えますが、今後も万全な感染防止対策のもと、小さくても人にあたたかさを伝えられるボランティア活動を展開していきたいと思っております。



上：病院装飾ボランティアサークルの作品。病院の待合室の雰囲気が和やかになりました。  
中・下：公開講座の様子と病院装飾ボランティアサークルの作品。心のこもった素敵な作品の数々でした。

## 一層の充実と発展を続けるサービスラーニング コミュニティ政策学部

コミュニティ政策学部では正課科目「コミュニティ研究Ⅱ」(1年前期・必修)のなかで、知識と体験を結び付け、学びを深めていくサービスラーニングという教育手法を導入しています。この授業は年々実績を伴って発展し、現在は連携先の企業・団体ごとにコースが設定され、学生の多様な関心に対応できるようになっています。授業では、連携先の方々による出張講義のみならず、学生が連携先の現場を訪問し、さまざまな体験を行います。

2020年度は、①IoTを活用したビジネス提案、②商品の企画開発と流通、③地域における補導活動、④パラスポーツと地域、⑤公共施設のマネジメント、⑥地域活性化——「まち」の魅力と人と移住——の全6コースが設けられました。新型コロナウイルスの流行による影響で当初の計画を変更せざるを得ない場面もありましたが、教育効果を鑑みて、感染症対策を十分に行いながら対面授業や体験等を行いました。

21年度も感染症対策に十分に配慮しつつ、学生にとって「生きた学び」となる授業を展開していきます。



上：IoTを活用したビジネス提案コースの様子  
下：パラスポーツと地域コースの体験会の様子

## 保育士課程登録者の3人に1人が公務員保育士に! 教育福祉学科

教育福祉学科幼稚園保育士課程の4年生は、コロナ禍の中、就職活動にも真剣に取り組みました。その結果、東京都職員を含む公務員保育士に14名(のべ合格者数24名)が内定、保育士課程登録者の3人に1人が公務員保育士という結果となり、幼稚園小学校課程の学生は千葉県の教員採用試験に現役合格しました。

また、保育者となるための総仕上げの授業ともいえる「保育就職実践演習」では、ソーシャルディスタンスに配慮したグループワークとしてZoomによる人形劇に挑戦しました。初めての試みではありましたが、グループ内で試行錯誤しながら創意工夫を發揮、発表会では「人形劇団ひぼぼたあむ」を主宰する永野むつみ先生に来ていただき、新しい表現に挑む学生たちを称える有意義な講評をいただきました。表現力と同僚性の構築力を身に付けた学生たちは、それぞれが自分の専門性を活かした道へと進みます。



上：Zoom人形劇の一場面  
下：最後はグループメンバー揃って記念撮影

東京キャンパス

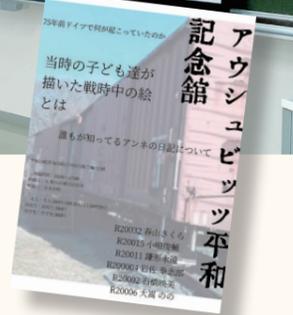
淑徳祭 研究発表会とポスター発表 歴史学科

2020年11月に淑徳祭がオンラインで開催され、歴史学科は二つのイベントを実施しました。一つは3年生の研究発表です。各ゼミの代表者がPower Pointを使って発表するとともに、全員がポスター発表を行いました。

二つめは、1年生によるポスター発表です。人文学部の1年生は、週に1回クラスアワーというフィールドワークやグループ活動をする授業があり、コロナ禍でもZoomによるリアルタイム授業を行ってきました。



上：3年生の研究発表会 右下：1年生のポスター発表（優勝チーム）



恒例の演劇発表会 コロナ下でも力作ぞろい 表現学科

2020年12月に東京キャンパス6号館演劇スタジオにて、今年で7回目を迎える演劇発表会が行われました。学生が自分たちでオリジナル作品を一から協働して創作する本発表会は、自主性や責任感を身につけ、「共生」スピリットを養う「創作表現技法I・II」の学修成果の発表の場であり、また恒例の学科行事として毎年好評を博しています。

20年度は新型コロナウイルス感染症の流行により、台本の読み稽古からスタッフワークまで全て遠隔オンラインで対応し、本番も、徹底した感染防止対策のもと、週別にクラスごと無観客公演で行われ、出演者は全員、フェイスガードまたはマスクを着用して演じました。



学生が制作した各クラス劇のフライヤーデザイン

埼玉キャンパス

ビジネスプランコンテスト本選を実施（コミュニケーション論） 経営学部

2019年度から引き続きH.I.S.様のご協力のもと、20年12月11日、コミュニケーション論においてビジネスプランコンテスト本選をオンラインで実施しました。

課題テーマは「Before/Afterコロナ時代にH.I.Sが仕掛けるべきビジネスプラン」です。

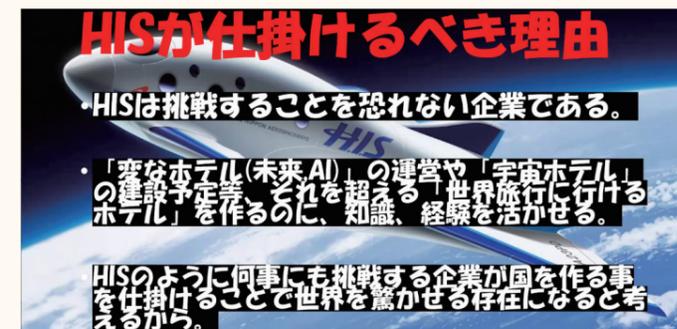
オンラインのためチームでの打ち合わせは例年以上に難しかったにも関わらず、審査員も審査に悩むほど高いクオリティのプレゼンテーションが揃い、担当する教員としてとても嬉しい驚きでした。

最終的な結果は、以下のとおりです。

- H.I.S.賞（最優秀賞） 山脇クラスB「田舎de出愛（出逢い）」
教員賞 外山クラスE「野菜の新しい活用法」
総合クラス優勝 外山クラス

H.I.S.賞と教員賞を受賞したチームメンバー全員に対して、H.I.S.様からバーチャル旅行の副賞をいただきました。心から感謝申し上げます。

2年次からのゼミやアルバイト、色々な場面で、この授業で学んだ自分なりのリーダーシップを発揮してくれれば、これ以上嬉しいことはありません。



上：プレゼンテーション内容 下：H.I.S賞チーム写真

こども教育学科入学予定者ウインターセミナー 教育学部

2020年12月20日、21年度入学予定者に向けたウインターセミナーを、検温・マスク着用・消毒など感染防止策を徹底して開催しました。

こども教育学科のウインターセミナーでは、入学前の不安解消や仲間づくりをめざして、アイスブレイクのためのゲームなどの活動を行っています。当日の運営は、主に学生リーダー主体で行われ、入学前課題へのアドバイスやパネルシアターの上演など、大活躍してくれました。

19年度は、新型コロナウイルス流行以前に例年どおり開催しました。その後20年度前期には、学生は自宅で遠隔授業に取り組む生活になりましたが、ウインターセミナーでつくられた人間関係やSNS上のつながりが、交流や情報交換に役立ち、新入生の心の支えとなった例が多くありました。



上：パネルシアターの上演も行いました 下：座席は密にならないように配置

## 大学広報誌「Together」 読者アンケートのお願い

大学広報誌「Together」は4月と10月の年2回発行しています。保護者や卒業生の皆様に向けて、「淑徳大学の今」を届けます。皆様の貴重なご意見、ご感想をお聞かせいただきたく、下記QRコードより読者アンケートへのご協力をお願い致します。



### 千葉キャンパス

総合福祉学部 コミュニティ政策学部  
大学院 総合福祉研究科  
〒260-8701  
千葉県千葉市中央区大巖寺町200  
Tel 043-265-7331

### 千葉第二キャンパス

看護栄養学部 大学院 看護学研究科  
〒260-8703  
千葉県千葉市中央区仁戸名町673  
Tel 043-305-1881

### 埼玉キャンパス

経営学部 教育学部  
〒354-8510  
埼玉県入間郡三芳町藤久保1150-1  
Tel 049-274-1511

### 東京キャンパス

人文学部 淑徳大学短期大学部  
〒174-8631  
東京都板橋区前野町6-36-4  
Tel 03-3966-7631



発行日 | 2021年4月1日

編集 | 大学広報誌編集委員会

発行 | 大学事務局

制作協力 |

株式会社ウロ、CHICACU Design Office

撮影 | 黒崎健一

### 大学広報誌制作における

#### 新型コロナウイルス感染防止策について

本誌の制作では、写真撮影は3密を避けながら短時間で実施し、取材は電話やオンライン会議システムを活用しました。新型コロナウイルス感染防止策を徹底しながら、制作にあたりました。



公式HP



公式  
Twitter



アドミッションセンター  
公式Twitter

